

2011/2012 シーズン

# スキー場傷害報告書

平成 24 年 2 月 1 日～2 月 29 日



全国スキー安全対策協議会

## 目 次

はじめに	1
1 協力スキー場および調査期間	2
2 用具の分類	2
3 受傷者数および集計・分析の対象	2
4 スキーとスノーボードの受傷者割合	5
5 用具別受傷者の割合	5
6 リフト等の輸送人員	6
7 受傷率	7
8 スキー受傷率およびスノーボード受傷率	8
9 受傷時間帯	12
10 天 候	13
11 性 別	13
12 年 齢	14
13 技 能	14
14 傷害の部位と種類	16
15 受傷原因	19
16 受傷場所	21
17 受傷時の行動	22
18 傷害程度	23
19 頭を強く打った疑い	23
20 ヘルメットの着用状況	24
21 受傷時のスピード	24
22 保険の加入状況	25
23 雪面状況	26
24 雪 質	26
資料1 2011/2012 スキーシーズンにおける死亡事故	27
資料2 2011/2012 スキーシーズン死亡者の内訳及び原因	28
資料3 スノースポーツ死亡者数の10年間の推移	28

2012年2月スキー場傷害調査用紙

## はじめに

このスキー場傷害調査報告書は、毎年全国スキー安全対策協議会より協力を依頼したスキー場の2月中のデータをもとに作成しています。2011/2012シーズンは、2009/2010、2010/2011シーズンと同じ45スキー場の協力を得ることができました。スキー場では、リフト・ゴンドラ等の新設、運休、廃止等、シーズンによって状況が異なることがありますので、同じスキー場の調査といっても各シーズンの条件は必ずしも同じとは言えないでしょう。しかし、そのような状況を考慮しての経年的な比較は意味があると思われるます。

昨年2月と比較して、今年2月の索道の輸送延べ人員は、12.2%減少し、全受傷者数は28.8%の減少でした。傷害発生率は、過去10年で最も低い値でした。この原因はリフト・ゴンドラ等の利用者数が減少したことが一因であると思われませんが、この調査からは詳細はわかりません。しかし、スキー場における死亡事故は昨年より2件増えて16件発生しております。

スキー場から提出された調査用紙にはケガ以外の疾病が含まれているものがありました。この調査目的は、スキー場で発生した傷害の調査であり、ケガ以外の疾病は傷害発生率などの分析に影響しますので集計から除きました。その結果、提出していただいた傷害件数とこの報告書に記載されている傷害件数が異なるスキー場があることをご理解下さい。

なお、調査用紙の内容は、記入に要する時間短縮や経費の軽減の点から引き続き検討しております。

この報告書が次期スキーシーズンのスキー場のリスクマネジメントやスキー学校等における安全指導のための参考資料にいただければ幸いです。

調査にご協力いただきました受傷された方々、及びスキーパトロール、診療所等スキー場関係者に厚くお礼申し上げます。

平成24年9月

全国スキー安全対策協議会  
調査委員 速 水 修

## 1. 協力スキー場および調査期間

2012年2月1日から2月29日の1ヶ月間、全国45スキー場から報告がありましたデータをもとに集計分析しました。協力スキー場及び受傷者数については表1、表2に示しました。

なお、志賀高原スキー場については、志賀高原エリアのスキー場を総合したものですが、シーズンによって協力スキー場は同じではありません。

## 2. 用具の分類

用具は、今シーズンの調査用紙より次のように分類しました。

### 1) スキー

- ①アルペンスキー（従来のノーマルスキー、カービングスキー、ファンスキーやファットスキー、モーグルスキー、オールランドスキー等を含む）
- ②スキーボード（スキー板の長さ100cm未満のもの）
- ③テレマークスキー
- ④クロスカントリースキー
- ⑤その他のスキー

### 2) スノーボード

- ①フリースタイルスノーボード
- ②アルペンスノーボード
- ③その他のスノーボード

### 3) ソリ

- ①子供用ソリ
- ②腰掛ソリ
- ③立ち乗りソリ（スノースクート等）
- ④その他のソリ

### 4) その他

## 3. 受傷者数および集計・分析の対象

45スキー場から送付されてきた調査票は2,989件でした。このうち、体調不良、風邪、過呼吸、ケガなし、など傷害ではないと思われるもの23人を除き2,966人を分析の対象としました。その内訳は、スキーの受傷者数1,084人、スノーボードの受傷者数1,846人、ソリ9人、その他26人、用具の種類無記入は1人でした。

なお、各項目における集計、分析は原則として無記入のものを除いて行いました。

表1. 用具別受傷者数①スキー

(F)

(人)

(G)

番号	スキー場	受傷者数	ス キ ー				小計
			アルペン スキー	スキー ボード	テレマーク スキー	その他の スキー	
1	ニセコウツリリゾートゲラン・ヒラフ	50	24	1	0	0	25
2	朝里川温泉	17	12	0	0	0	12
3	サップロテイネ	29	24	0	0	2	26
4	定山溪高原札幌国際	17	8	0	0	0	8
5	ルスツリゾート	87	52	0	0	0	52
6	富良野	31	22	0	0	1	23
7	大鱈温泉	9	8	1	0	0	9
8	安比高原	63	29	1	0	0	30
9	みやぎ蔵王白石	9	2	0	0	0	2
10	みやぎ蔵王えぼし	42	16	0	0	0	16
11	猪苗代	118	14	1	0	0	15
12	裏磐梯猫魔	29	10	1	0	0	11
13	アルツ磐梯	55	18	0	0	0	18
14	会津高原たかつえ	58	15	0	0	0	15
15	たざわ湖	27	19	0	0	0	19
16	蔵王温泉	114	69	2	0	0	72
17	苗場	85	36	0	0	0	35
18	石打丸山	120	19	1	0	1	20
19	セトリジャー-舞子スノーリゾート	179	39	0	0	0	39
20	上越国際	121	37	0	0	0	37
21	黒姫高原スノーパーク	11	7	0	0	0	7
22	斑尾高原	74	9	0	0	0	9
23	野沢温泉	100	40	3	0	0	43
24	志賀高原	133	95	1	0	0	96
25	白馬五竜	195	46	2	0	2	50
26	白馬八方尾根	146	76	2	0	0	79
27	白馬岩岳スノーフィールド*	85	24	1	1	0	26
28	榎池高原	130	31	1	0	2	34
29	立山山麓極楽坂	14	11	0	0	1	13
30	白山一里野温泉	21	11	0	0	0	11
31	草津国際	73	30	0	0	1	31
32	スノーパーク尾瀬戸倉	22	5	0	0	2	7
33	万座温泉	20	11	0	0	0	11
34	ダイナランド	111	17	1	0	0	18
35	スキージャム勝山	55	13	2	0	1	16
36	箱館山	11	2	0	0	0	2
37	ハチ北高原	111	30	0	0	0	30
38	びわ湖バレイ	80	11	0	0	0	13
39	奥神鍋	12	9	0	0	0	9
40	ハチ高原	41	16	0	0	0	16
41	だいせん初代リゾート	96	35	1	0	1	37
42	芸北国際	35	15	1	0	0	16
43	恐羅漢スノーパーク	33	3	0	0	0	3
44	瑞穂ハイランド	58	11	1	2	2	16
45	ユートピアサイオト	39	7	0	0	0	7
	合 計	2,966	1,038	24	3	16	1,084

表2. 用具別受傷者数①スノーボード・その他

(H)

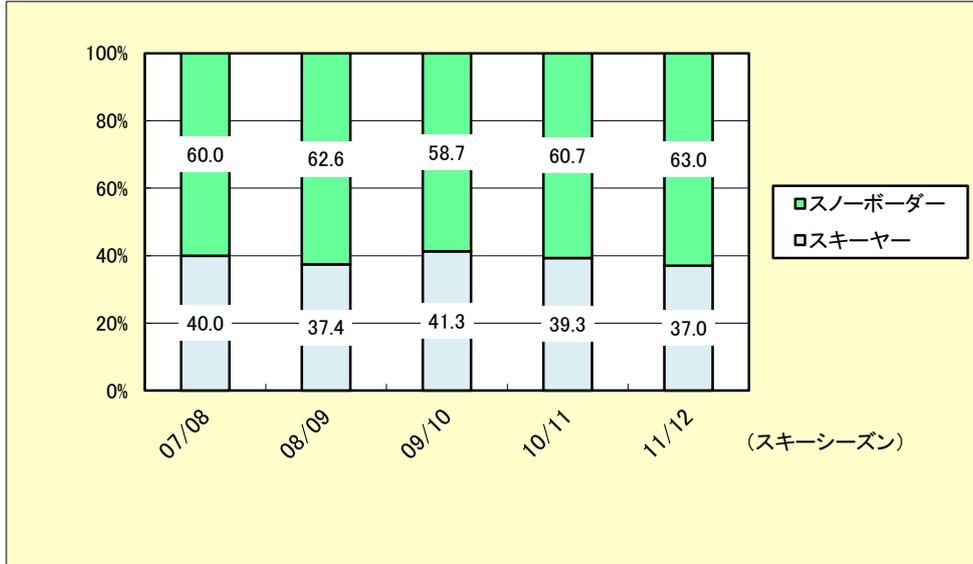
(人)

番号	スキー場	スノーボード				ソリ					その他	種類 無記入
		フリー スタイル	アルペン	その他	小計	子供用	腰掛+	立ち乗り	その他	小計		
1	ニホマウンテンリゾートグラン・ヒラフ	25	0	0	25	0	0	0	0	0	0	0
2	朝里川温泉	4	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0
3	サップロテイネ	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
4	定山溪高原札幌国際	8	0	0	8	0	0	1	0	1	0	0
5	ルスツリゾート	35	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0
6	富良野	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
7	大鱈温泉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	安比高原	33	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0
9	みやぎ蔵王白石	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0
10	みやぎ蔵王えぼし	26	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0
11	猪苗代	99	2	0	99	1	0	0	0	1	3	0
12	裏磐梯猫魔	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0
13	アルツ磐梯	35	0	0	35	0	0	0	0	0	3	0
14	会津高原たかつえ	40	3	0	43	0	0	0	0	0	0	0
15	たざわ湖	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0
16	蔵王温泉	41	1	0	42	0	0	0	0	0	0	0
17	苗場	49	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0
18	石打丸山	100	0	0	100	0	0	0	0	0	0	0
19	セントリジャー舞子スノーリゾート	133	2	1	136	0	1	0	0	1	3	0
20	上越国際	80	0	0	80	1	0	1	0	2	2	0
21	黒姫高原スノーパーク	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
22	斑尾高原	64	0	0	64	0	0	0	0	0	1	0
23	野沢温泉	56	0	0	56	0	0	0	0	0	0	0
24	志賀高原	37	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0
25	白馬五竜	143	2	0	145	0	0	0	0	0	0	0
26	白馬八方尾根	65	0	0	65	0	1	0	0	1	1	0
27	白馬岩岳スノーフィールド*	59	0	0	59	0	0	0	0	0	0	1
28	桐池高原	96	0	0	96	0	0	0	0	0	0	0
29	立山山麓極楽坂	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
30	白山一里野温泉	9	0	0	9	0	0	0	0	0	1	0
31	草津国際	37	0	0	37	2	0	0	0	2	3	0
32	スノーパーク尾瀬戸倉	15	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0
33	万座温泉	9	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0
34	ダイナランド	93	0	0	93	0	0	0	0	0	0	0
35	スキージャム勝山	39	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0
36	箱館山	8	0	0	8	0	0	0	0	0	1	0
37	ハチ北高原	78	1	0	79	0	0	0	0	0	2	0
38	びわ湖パレイ	66	0	0	66	1	0	0	0	1	0	0
39	奥神鍋	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
40	ハチ高原	24	0	0	24	0	0	0	0	0	1	0
41	だいせん初トリゾート	58	0	0	58	0	0	0	0	0	1	0
42	芸北国際	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0
43	恐羅漢スノーパーク	29	1	0	30	0	0	0	0	0	0	0
44	瑞穂ハイランド	42	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0
45	ユートピアサイオト	29	0	0	29	0	0	0	0	0	3	0
	合 計	1,835	12	1	1,846	5	2	2	0	9	26	1

#### 4. スキーとスノーボードの受傷者割合

図1はスキー及びスノーボードの受傷者の割合を示したものです（ソリ等その他を除いて集計）。今シーズンは、過去5年間でスノーボーダーの受傷者割合が最も高く、スキーヤーの受傷者割合は最も低くなっています。

図1. スキーとスノーボードの受傷者割合の推移



#### 5. 用具別受傷者の割合

図2は受傷者の使用用具の割合です。（使用用具不明の1件を除いて集計）昨シーズンと比較しスノーボードの受傷者の割合が増加し、スキーの受傷者の割合が減少しています。

図2. 用具別受傷者の割合

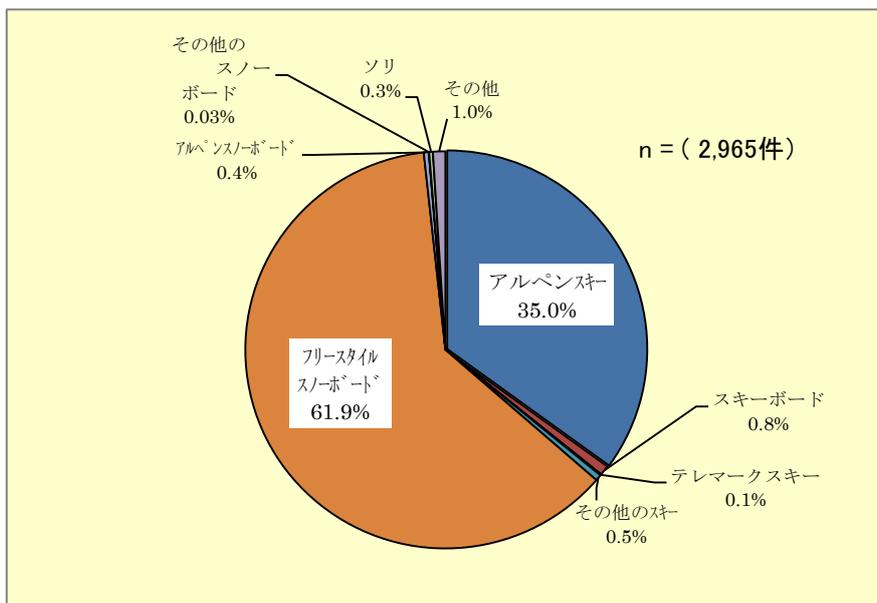


表3は、用具別受傷者の推移を表したものです。2010年からスキーの分類を変えました。今シーズンの受傷者数は昨シーズンより約29%減少しています。

表3. 用具別受傷者数の推移 人(%)

調査年 (2月)	スキー					スノーボード			ソリ	計
	ノーマル	カービング	ファン	短ファン	その他	フリー スタイル	アルペン	その他	その他	
2008年	380 (10.1)	990 (26.2)	51 (1.4)	49 (1.3)	23 (0.6)	2,199 (58.3)	31 (0.8)	7 (0.2)	42 (1.1)	3,753 (100.0)
2009年	413 (10.9)	885 (23.4)	47 (1.2)	39 (1.0)	18 (0.5)	2,317 (61.3)	21 (0.6)	1 (0.03)	39 (1.0)	3,780 (100.0)
	アルペン	スキーボード	テレマーク	クロカン	その他					
2010年	1,340 (38.9)	55 (1.6)	3 (0.1)	0 (0.0)	6 (0.2)	1,976 (57.4)	12 (0.3)	3 (0.1)	49 (1.4)	3,444 (100.0)
2011年	1,514 (36.3)	70 (1.6)	10 (0.2)	1 (0.02)	18 (0.4)	2,465 (59.2)	23 (0.5)	2 (0.04)	57 (1.3)	4,160 (100.0)
2012年	1,041 (35.1)	24 (0.8)	3 (0.1)	0 (0.0)	16 (0.5)	1,833 (61.9)	12 (0.4)	1 (0.03)	3 (1.2)	2,965 (100.0)

※ 調査年により協力スキー場の数に変動があります(2010年～2012年の協力スキー場は同じ)

## 6. リフト等の輸送人員

スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員は、各スキー場から報告があった2月の輸送延べ人員とスキーヤーとスノーボーダーの入り込みの比率から推計したものです。

表4はスキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移です。2012年2月の輸送延べ人員は、前年度と比べて12.2%減少しました。

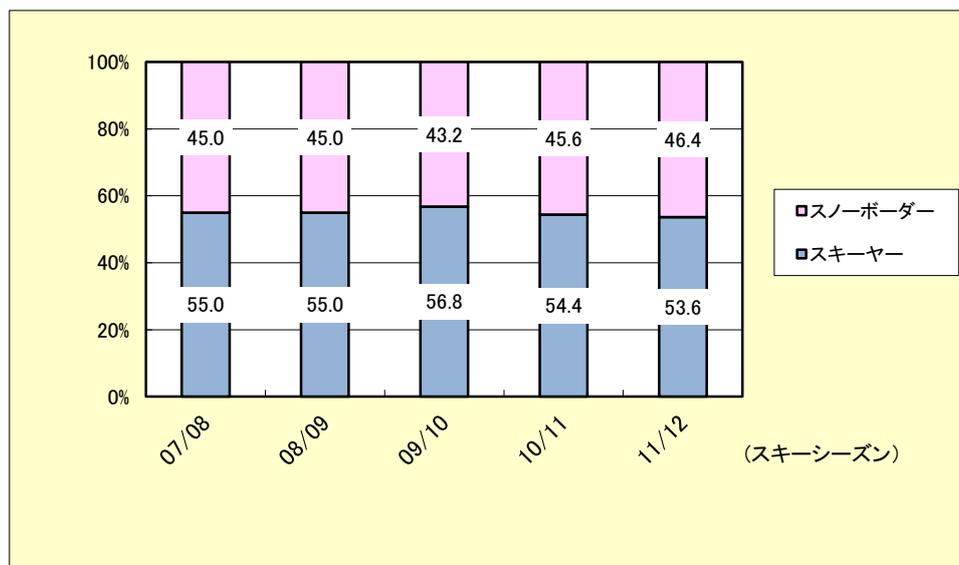
表4. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の推移 (人)

調査年(2月)	スキーヤー	対前年比	スノーボーダー	対前年比	総輸送人員	対前年比
2008年	19,734,544	1.3%	17,147,000	1.5%	36,964,911	1.6%
2009年	18,389,227	-6.8%	15,894,319	-7.3%	34,283,546	-7.3%
2010年	18,082,250	-1.7%	14,481,431	-8.9%	32,563,681	-5.0%
2011年	18,837,522	4.2%	15,763,890	8.9%	34,578,359	6.2%
2012年	16,225,318	-13.9%	14,130,623	-10.4%	30,355,941	-12.2%

※ 調査年により協力スキー場の数に変動があります(2010年～2012年の協力スキー場は同じ)

図3はスキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合です。今シーズンは過去5年間でスキーヤーの推計輸送人員の割合が最も低く、スノーボーダーの推計輸送人員の割合が最も高くなっています。

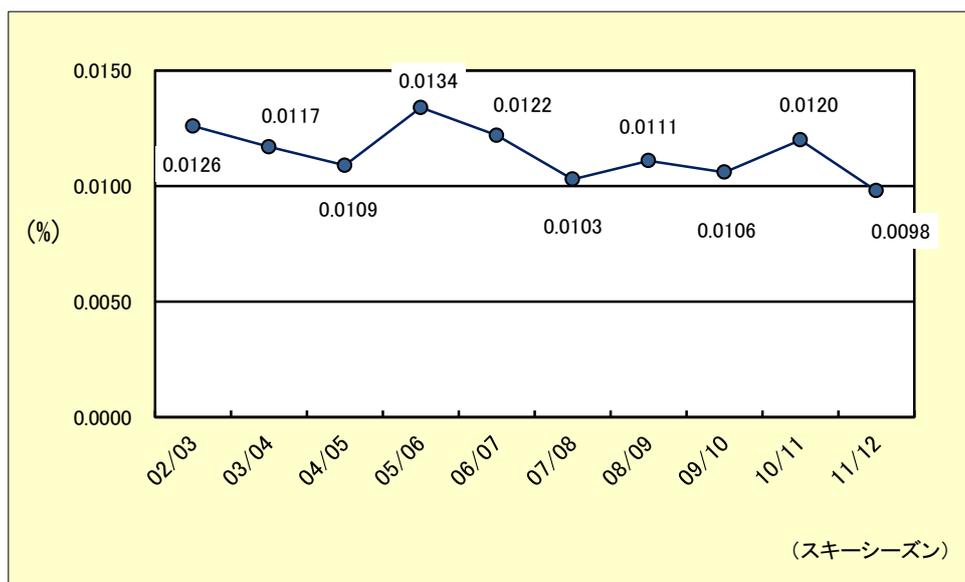
図3. スキーヤーとスノーボーダーの推計輸送人員の割合の推移



## 7. 受傷率

最近10シーズンの受傷率の推移を図4に示しました。今シーズンは過去10年間で最も低い値でした。

図4. 最近10年間の受傷率の推移

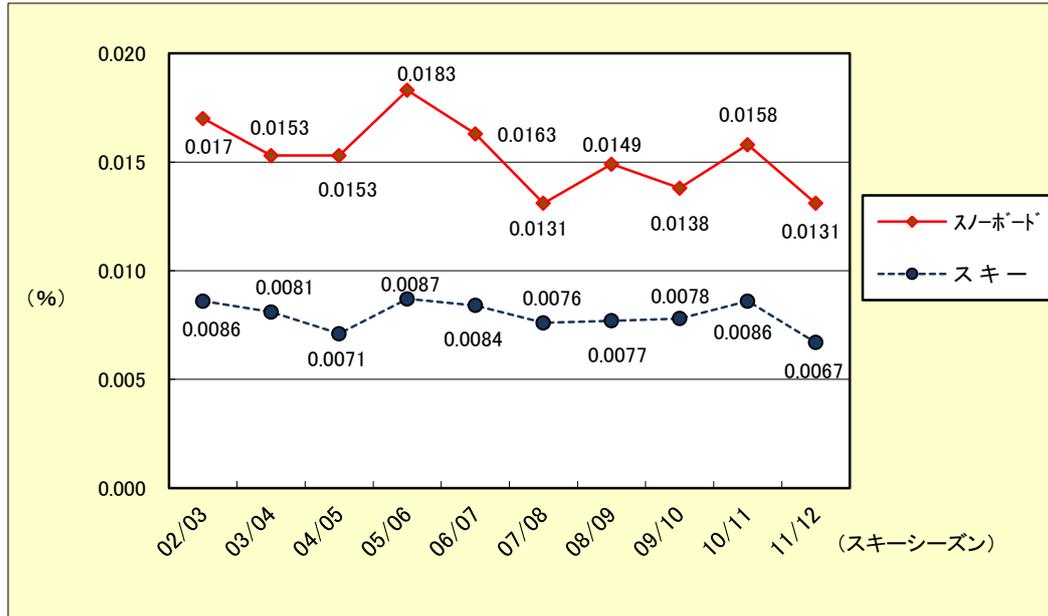


## 8. スキー受傷率およびスノーボード受傷率

図5は、スキー受傷率とスノーボード受傷率の推移です。今シーズンはスキーの受傷率、スノーボードの受傷率ともに過去10年間で最も低い値を示しています。

スキーとスノーボードの受傷率の比較から、スノーボードはスキーの2倍の受傷率と言えます。

図5. スキー及びスノーボード受傷率の推移



本報告書では、輸送延べ人員に対する受傷者数の割合としています。例えば受傷率0.010%ということは、リフト・ゴンドラ等の輸送人員1万人あたり1人の受傷ということであり、10万人あたりでは10人、100万人あたりでは100人ということになります。

スキー受傷率は、スキーヤー推計輸送人員に対するスキー受傷者数の割合、スノーボード受傷率は、スノーボーダー推計輸送人員に対するスノーボード受傷者数の割合を示したものです。

なお、提出された集計表に書かれた傷害件数と調査用紙（個票）の数が一致しないスキー場やケガ以外の疾病などが含まれている場合がありますので、受傷率の計算は可能な限り実際の傷害件数を採用しました。したがって、スキー場から報告された傷害件数と本報告書の傷害件数とが異なる場合がありますのでご理解ください。

表5（p9）は輸送人員、入り込み比率及びスキー・スノーボード別推計輸送人員です。各スキー場の受傷者数と受傷率は、表6（p10）に示しました。受傷率は、総輸送人員に対する受傷者数の割合を示したものです。

表5. 輸送人員, 入り込み比率及びスキー・スノーボード別推計輸送人員

番号	スキー場	(A)	(B)		(C)	(D=A×B)		(E=A×C)	
		輸送人員(人) (2010年2月)	入り込み比率(%)			推計輸送人員(人)			
			スキーヤー	ボーダー		スキーヤー	ボーダー		
1	ニホマウンテンリゾートグレン・ヒラフ	1,035,900	55.0	45.0		569,745	466,155		
2	朝里川温泉	236,224	65.0	35.0		153,546	82,678		
3	サッポロテイネ	651,968	60.0	40.0		391,181	260,787		
4	定山溪高原札幌国際	342,060	52.0	48.0		177,871	164,189		
5	ルスツリゾート	892,641	60.0	40.0		535,585	357,056		
6	富良野	387,270	77.0	23.0		298,198	89,072		
7	大鱒温泉	158,196	90.7	9.3		143,420	14,776		
8	安比高原	628,947	68.9	31.1		433,344	195,603		
9	みやぎ蔵王白石	143,025	60.0	40.0		85,815	57,210		
10	みやぎ蔵王えぼし	305,121	40.0	60.0		122,048	183,073		
11	猪苗代	759,840	20.0	80.0		151,968	607,872		
12	裏磐梯猫魔	164,767	60.0	40.0		98,860	65,907		
13	アルツ磐梯	427,054	40.0	60.0		170,822	256,232		
14	会津高原たかつえ	416,382	40.0	60.0		166,553	249,829		
15	たざわ湖	305,578	60.0	40.0		183,347	122,231		
16	蔵王温泉	1,647,000	71.4	28.6		1,175,958	471,042		
17	苗場	1,340,000	51.0	49.0		683,400	656,600		
18	石打丸山	1,414,000	40.0	60.0		565,600	848,400		
19	セントレジャー舞子スノーリゾート	827,378	50.0	50.0		413,689	413,689		
20	上越国際	1,222,362	60.0	40.0		733,417	488,945		
21	黒姫高原スノーパーク	228,253	80.0	20.0		182,602	45,651		
22	斑尾高原	630,880	40.0	60.0		252,352	378,528		
23	野沢温泉	1,434,272	62.0	38.0		889,249	545,023		
24	志賀高原	2,020,802	71.0	29.0		1,434,769	586,033		
25	白馬五竜	916,101	30.0	70.0		274,830	641,271		
26	白馬八方尾根	1,681,951	70.0	30.0		1,177,366	504,585		
27	白馬岩岳スノーフィールド	519,648	35.0	65.0		181,877	337,771		
28	栂池高原	986,054	35.0	65.0		345,119	640,935		
29	立山山麓極楽坂	223,425	50.0	50.0		111,713	111,713		
30	白山一里野温泉	275,792	60.0	40.0		165,475	110,317		
31	草津国際	539,547	68.8	31.2		371,208	168,339		
32	スノーパーク尾瀬戸倉	336,768	45.0	55.0		151,546	185,222		
33	万座温泉	266,386	69.5	30.5		185,138	81,248		
34	ダイナランド	670,768	30.0	70.0		201,230	469,538		
35	スキージャム勝山	671,615	43.0	57.0		288,794	382,821		
36	箱館山	441,535	73.0	27.0		322,321	119,214		
37	ハチ北高原	877,606	30.0	70.0		263,282	614,324		
38	びわ湖バレイ	834,347	35.0	65.0		292,021	542,326		
39	奥神鍋	304,201	60.0	40.0		182,521	121,680		
40	ハチ高原	766,213	70.0	30.0		536,349	229,864		
41	だいせん初トリゾート	832,718	67.0	33.0		557,921	274,797		
42	芸北国際	288,209	40.0	60.0		115,284	172,925		
43	恐羅漢スノーパーク	342,719	40.0	60.0		137,088	205,631		
44	瑞穂ハイランド	645,280	40.0	60.0		258,112	387,168		
45	ユートピアサイオト	315,138	40.0	60.0		126,055	189,083		
	合計	30,355,941	53.5	46.5		16,225,318	14,130,623		

表6. 受傷率

番号	スキー場	(F)	(G)	(H)	(F/A × 100)	(G/D × 100)	(H/E × 100)
		全受傷者数	スキー 受傷者数	スノーボード 受傷者数	全体受傷率	スキー受傷率	スノーボード 受傷率
1	ニセコマウンテンリゾートグランドヒル	50	25	25	0.0048	0.0044	0.0054
2	朝里川温泉	17	12	4	0.0072	0.0078	0.0048
3	サッポロテイネ	29	26	3	0.0044	0.0066	0.0012
4	定山溪高原札幌国際	17	8	8	0.0050	0.0045	0.0049
5	ルスツリゾート	87	52	35	0.0097	0.0097	0.0098
6	富良野	31	23	8	0.0080	0.0077	0.0090
7	大鱒温泉	9	9	0	0.0057	0.0063	0.0000
8	安比高原	63	30	33	0.0100	0.0069	0.0169
9	みやぎ蔵王白石	9	2	7	0.0063	0.0023	0.0122
10	みやぎ蔵王えぼし	42	16	26	0.0138	0.0131	0.0142
11	猪苗代	118	15	99	0.0155	0.0099	0.0163
12	裏磐梯猫魔	29	11	18	0.0176	0.0111	0.0273
13	アルツ磐梯	55	18	35	0.0129	0.0105	0.0137
14	会津高原たかつえ	58	15	43	0.0139	0.0090	0.0172
15	たざわ湖	27	19	8	0.0088	0.0104	0.0065
16	蔵王温泉	114	72	42	0.0069	0.0061	0.0089
17	苗場	85	35	49	0.0063	0.0051	0.0075
18	石打丸山	120	20	100	0.0085	0.0035	0.0118
19	セントレジャー舞子スノーリゾート	179	39	136	0.0216	0.0094	0.0329
20	上越国際	121	37	80	0.0099	0.0050	0.0164
21	黒姫高原スノーパーク	11	7	4	0.0048	0.0038	0.0088
22	斑尾高原	74	9	64	0.0117	0.0036	0.0169
23	野沢温泉	100	43	56	0.0070	0.0048	0.0103
24	志賀高原	133	96	37	0.0066	0.0067	0.0063
25	白馬五竜	195	50	145	0.0213	0.0182	0.0226
26	白馬八方尾根	146	79	65	0.0087	0.0067	0.0129
27	白馬岩岳スノーフィールド	85	26	59	0.0164	0.0143	0.0175
28	樽池高原	130	34	96	0.0132	0.0099	0.0150
29	立山山麓極楽坂	14	13	1	0.0063	0.0116	0.0009
30	白山一里野温泉	21	11	9	0.0076	0.0066	0.0082
31	草津国際	73	31	37	0.0135	0.0084	0.0220
32	スノーパーク尾瀬戸倉	22	7	15	0.0065	0.0046	0.0081
33	万座温泉	20	11	9	0.0075	0.0059	0.0111
34	ダイナランド	111	18	93	0.0165	0.0089	0.0198
35	スキージャム勝山	55	16	39	0.0082	0.0055	0.0102
36	箱館山	11	2	8	0.0025	0.0006	0.0067
37	ハチ北高原	111	30	79	0.0126	0.0114	0.0129
38	びわ湖パレイ	80	13	66	0.0096	0.0045	0.0122
39	奥神鍋	12	9	3	0.0039	0.0049	0.0025
40	ハチ高原	41	16	24	0.0054	0.0030	0.0104
41	だいせん村リゾート	96	37	58	0.0115	0.0066	0.0211
42	芸北国際	35	16	19	0.0121	0.0139	0.0110
43	恐羅漢スノーパーク	33	3	30	0.0096	0.0022	0.0146
44	瑞穂ハイランド	58	16	42	0.0090	0.0062	0.0108
45	ユートピアサイオト	39	7	29	0.0124	0.0056	0.0153
	合計	2,966	1,084	1,846	0.0098	0.0067	0.0131

表7. スキーヤー・スノーボーダーの入り込み比率の推移

(スキーヤーの比率：スノーボーダーの比率)

番号	スキー場	2008年(2月)	2009年(2月)	2010年(2月)	2011年(2月)	2012年(2月)
1	ニセコウテンリゾートグラン・ヒラフ	55 : 45	55 : 45	55 : 45	55 : 45	55 : 45
2	朝里川温泉	78 : 22	60 : 40	60 : 40	80 : 20	65 : 35
3	サッポロテイネ	60 : 40	65 : 35	60 : 40	65 : 35	60 : 40
4	定山溪高原札幌国際	55 : 45	48 : 52	53 : 47	52 : 48	52 : 48
5	ルスツリゾート	65 : 35	71 : 29	80 : 20	60 : 40	60 : 40
6	富良野	78 : 22	78 : 22	77 : 23	78 : 22	77 : 23
7	大鰐温泉	88 : 12	87 : 13	89 : 11	93 : 7	91 : 9
8	安比高原	68 : 32	70 : 30	73 : 27	74 : 26	69 : 31
9	みやぎ蔵王白石	50 : 50	60 : 40	55 : 45	51 : 49	60 : 40
10	みやぎ蔵王えぼし	60 : 40	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
11	猪苗代	60 : 40	50 : 50	50 : 50	50 : 50	20 : 80
12	裏磐梯猫魔	35 : 65	45 : 55	60 : 40	60 : 40	60 : 40
13	アルツ磐梯	40 : 60	40 : 60	45 : 55	30 : 70	40 : 60
14	会津高原たかつえ	40 : 60	40 : 60	40 : 60	70 : 30	40 : 60
15	たざわ湖	70 : 30	70 : 30	85 : 15	75 : 25	60 : 40
16	蔵王温泉	69 : 31	69 : 31	69 : 31	52 : 48	71 : 29
17	苗場	52 : 48	53 : 47	54 : 46	55 : 45	51 : 49
18	石打丸山	40 : 60	40 : 60	50 : 50	40 : 60	40 : 60
19	セントルジャー舞子リゾート	48 : 52	45 : 55	40 : 60	52 : 48	50 : 50
20	上越国際	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40	60 : 40
21	黒姫高原スノーパーク	65 : 35	70 : 30	72 : 28	82 : 18	80 : 20
22	斑尾高原	45 : 55	45 : 55	55 : 45	45 : 55	40 : 60
23	野沢温泉	65 : 35	62 : 38	60 : 40	62 : 37	62 : 38
24	志賀高原	67 : 23	78 : 22	77 : 23	80 : 20	71 : 29
25	白馬五竜	50 : 50	50 : 50	50 : 50	53 : 47	30 : 70
26	白馬八方尾根	70 : 30	70 : 30	70 : 30	70 : 30	70 : 30
27	白馬岩岳スノーフィールド	26 : 74	30 : 70	34 : 66	30 : 70	35 : 65
28	桐池高原	40 : 60	40 : 60	35 : 65	30 : 70	35 : 65
29	立山山麓極楽坂	50 : 50	50 : 50	60 : 40	50 : 50	50 : 50
30	白山一里野温泉	50 : 50	—	68 : 32	70 : 30	60 : 40
31	草津国際	70 : 30	70 : 30	70 : 30	59 : 41	69 : 31
32	スノーパーク尾瀬戸倉	45 : 55	42 : 58	40 : 60	40 : 60	45 : 55
33	万座温泉	70 : 30	71 : 29	71 : 29	70 : 30	70 : 30
34	ダイナランド	35 : 65	30 : 70	35 : 65	33 : 67	30 : 70
35	スキージャム勝山	46 : 54	47 : 53	46 : 54	47 : 53	43 : 57
36	箱館山	79 : 21	74 : 26	76 : 24	77 : 23	73 : 27
37	ハチ北高原	55 : 45	40 : 60	40 : 60	30 : 70	30 : 70
38	びわ湖バレイ	45 : 55	30 : 70	35 : 65	20 : 80	35 : 65
39	奥神鍋	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60	60 : 40
40	ハチ高原	45 : 55	70 : 30	55 : 45	40 : 60	70 : 30
41	だいせん初代リゾート	67 : 33	70 : 30	70 : 30	66 : 34	67 : 33
42	芸北国際	47 : 53	40 : 60	40 : 60	40 : 60	40 : 60
43	恐羅漢スノーパーク	35 : 65	35 : 65	35 : 65	45 : 55	40 : 60
44	瑞穂ハイランド	40 : 60	35 : 65	30 : 70	40 : 60	40 : 60
45	ユートピアサイオト	30 : 70	25 : 75	40 : 60	40 : 60	40 : 60
	平均	54.4 : 45.6	53.6 : 46.4	55.5 : 44.5	54.5 : 45.5	53.5 : 46.5

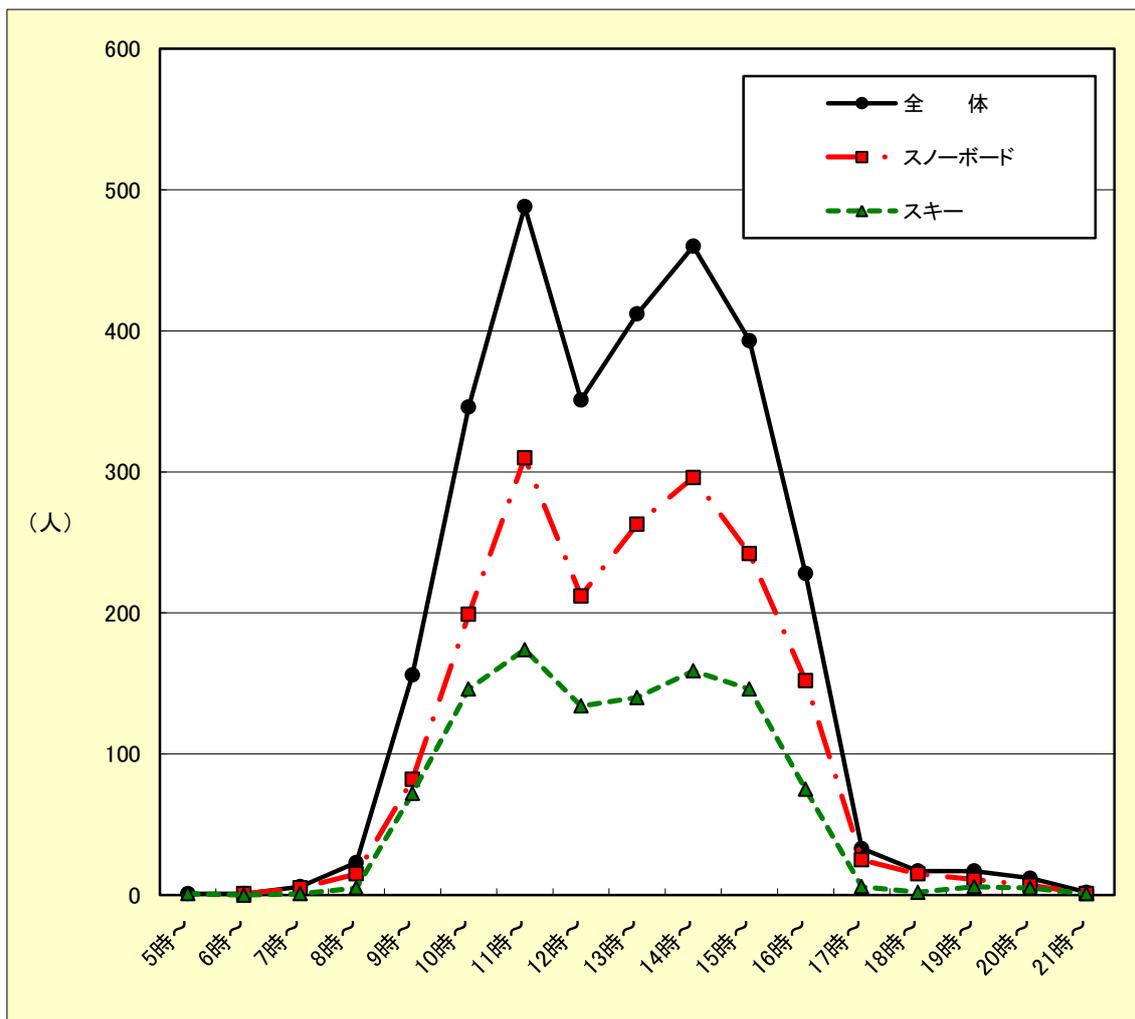
※ 今シーズンは、スキーヤーの入り込み比率が過去5シーズンで最も低率でした。

## 9. 受傷時間帯

図6は時刻毎に発生した受傷者数を示したものです。スキー場内のケガ全体では11時～12時と14～15時に多発しています。スキー、スノーボードのケガも同様でした。

原因は、混雑、雪質や雪の状態の変化、疲労など人的、環境的要因が影響しているものと考えられます。12時～13時が減少しているのは、昼食時のためと思われます。

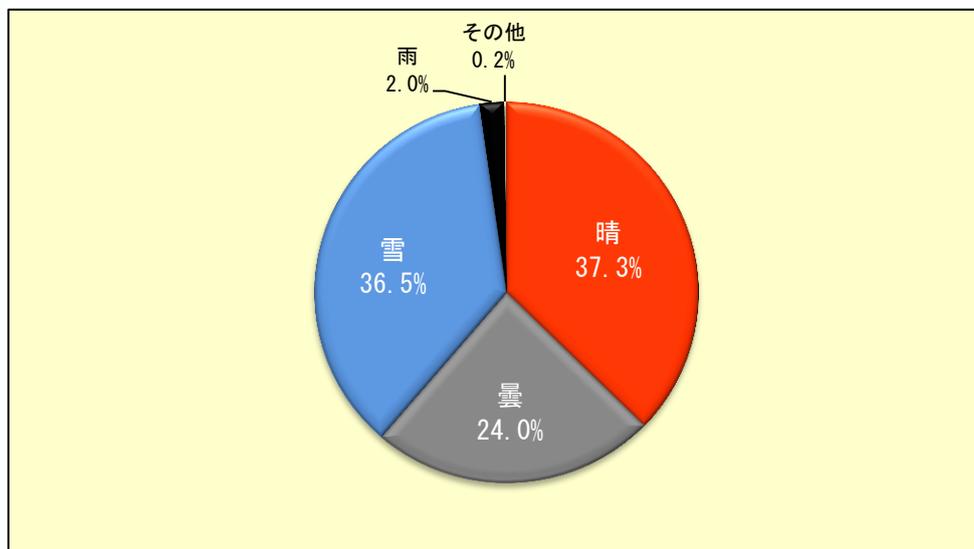
図6. 受傷時間帯



## 10. 天候

図7は受傷時の天候です。事故の間接的原因の一つと思われます。

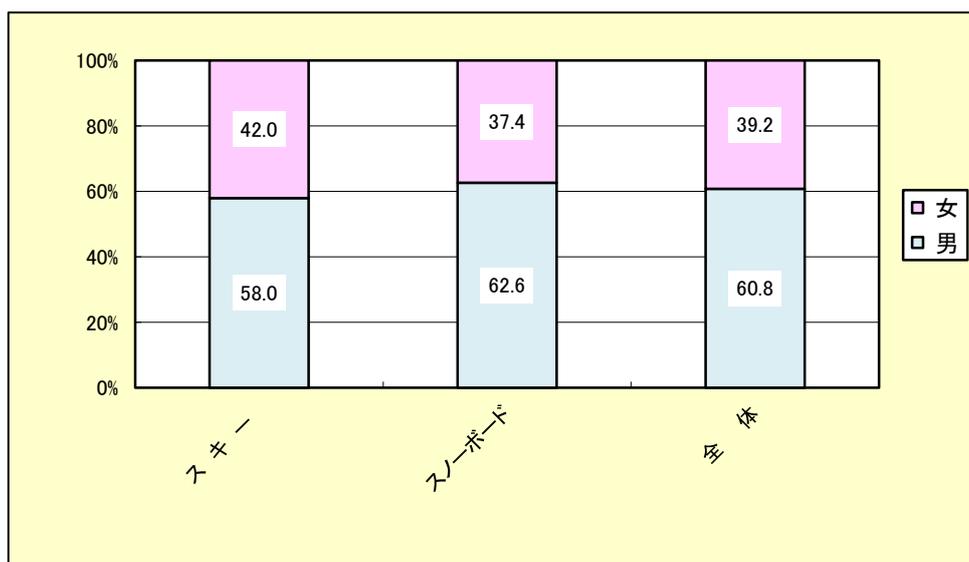
図7. 天候



## 11. 性別

図8は受傷者の性別を示したものです。全体とはスキー、スノーボード、ソリ、その他を合計したものです。

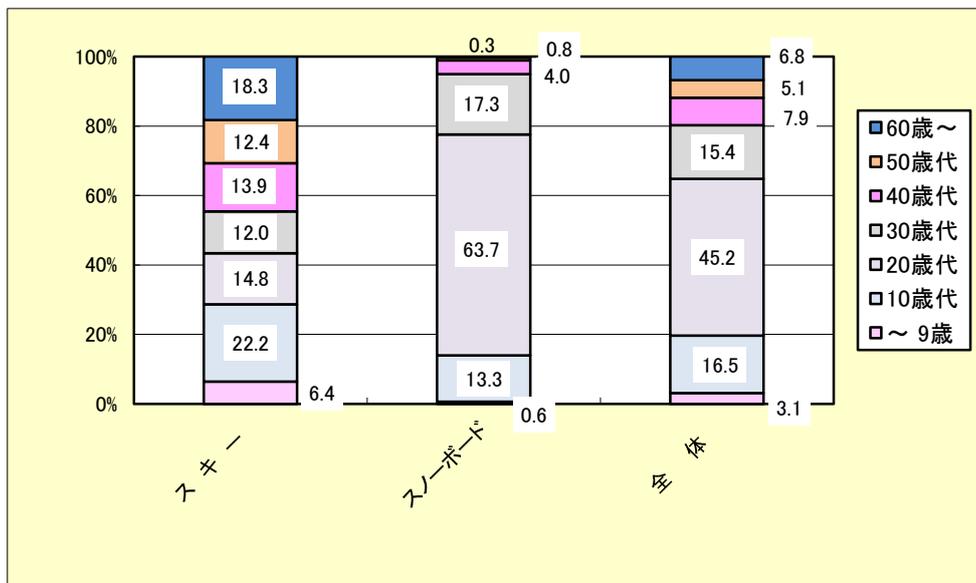
図8. 性別



## 12. 年齢

図9は受傷者の年代を示したものです。スキーの受傷者は、スノーボードに比べ年齢幅が広がっています。スノーボードの受傷者は30歳未満が78%を占めています。

図9. 年齢



## 13. 技能

図10は受傷者の技能を示したものです。スノーボードの受傷者は「初めて・初級者」が約50%を占めています。合計とはスキーの受傷者とスノーボードの受傷者を合計したものです。

図10. 技能

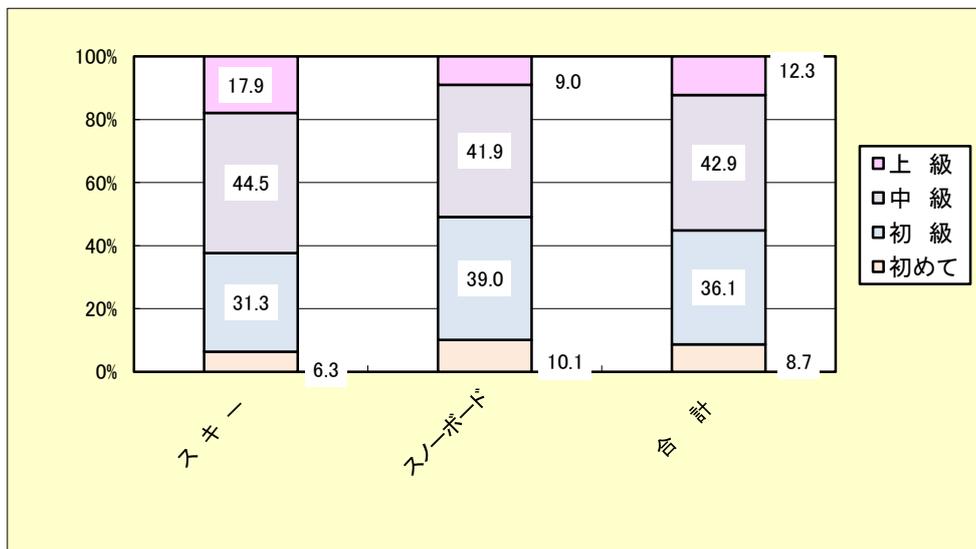
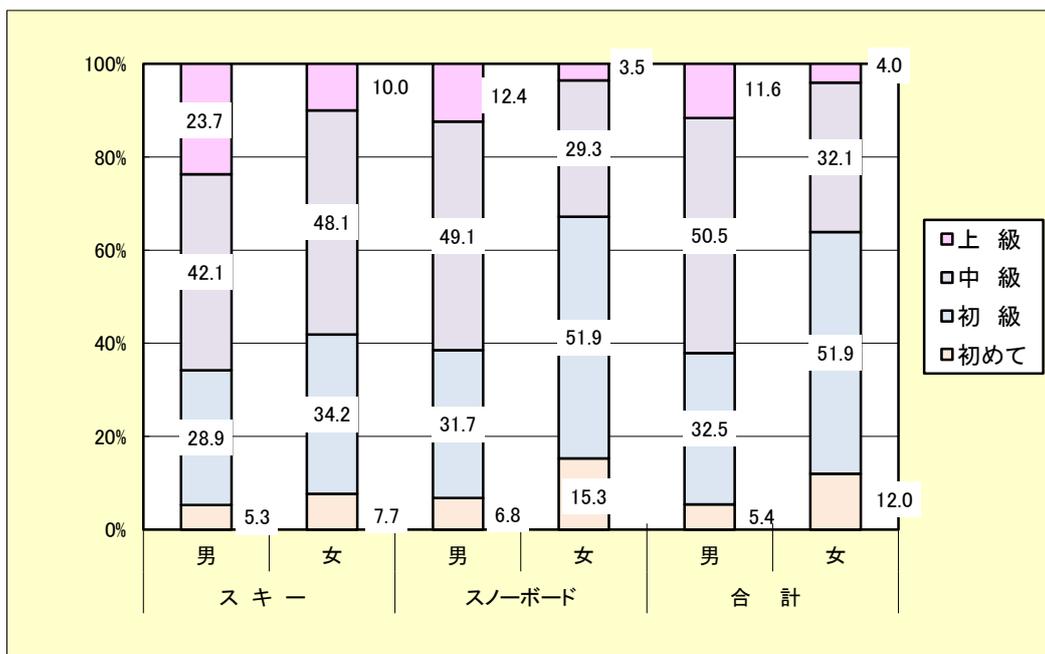


図 11 はスキーの受傷者の技能を性別に示したものです。スキー、スノーボードの受傷者とも技能レベルは男性が女性より高くなっています。これは、スキー、スノーボードの愛好者の人口そのものが、男性が女性より上級者の占める割合が高いことと関連があると思われる。

図 11. 性別技能(スキー)



#### 14. 傷害の部位と種類

傷害の部位と種類は、調査用紙に記入された1番から4番のすべてを合計した延べ数です。すなわち、一人で数ヶ所(4ヶ所まで)ケガをした場合でも記入されている限りすべて集計してあります(複数回答)。図中のnは集計の対象とした受傷者数です。

##### 1) スキーの傷害の部位と種類

図12はアルペンスキー、スキーボード、テレマークスキー、その他のスキーを合計した傷害の部位です。膝が最も多く(34.0%)、次に下腿、肩、足首等に多く受傷しています。

図12. スキーの傷害の部位(複数回答)

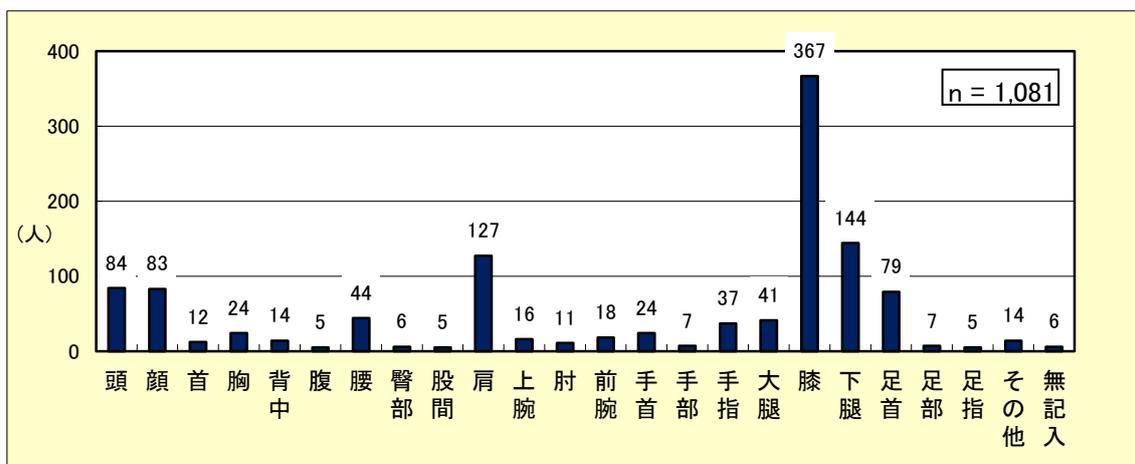
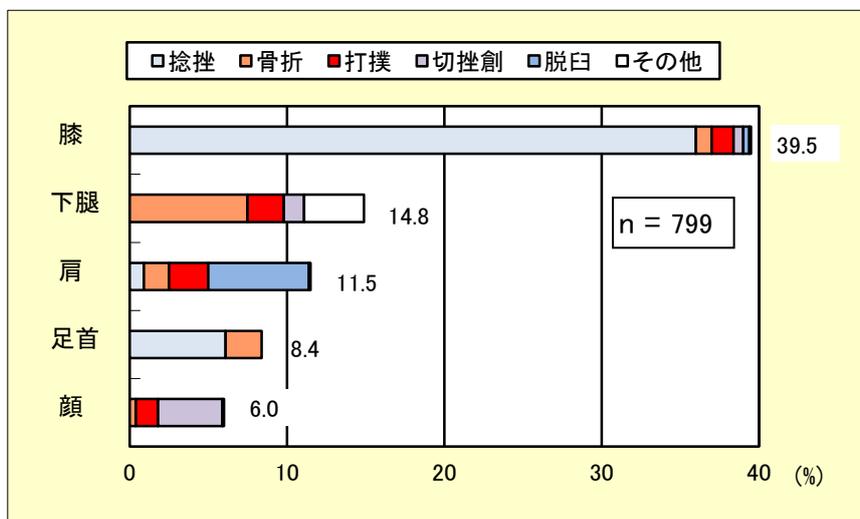


図13はスキーにおける「自分で転倒」の場合の傷害の部位と種類について、多く見られた部位5つを表しています。膝が最も多く、そのうち約90%が捻挫でした。

図13. スキーにおける「自己転倒」の傷害の部位と種類

(複数回答)



## 2) スノーボードの傷害の部位と種類

図 14 はフリースタイルスノーボード、アルペンスノーボード、その他のスノーボードを合計した傷害の部位です。肩が最も多く (21.0%), 次に、手首、頭、膝が多く受傷しています。スキーよりも全身にわたっており、特に上肢帯に多いことが特徴です。肩の部位は鎖骨を含めて集計しています。

図 14. スノーボードの傷害の部位 (複数回答)

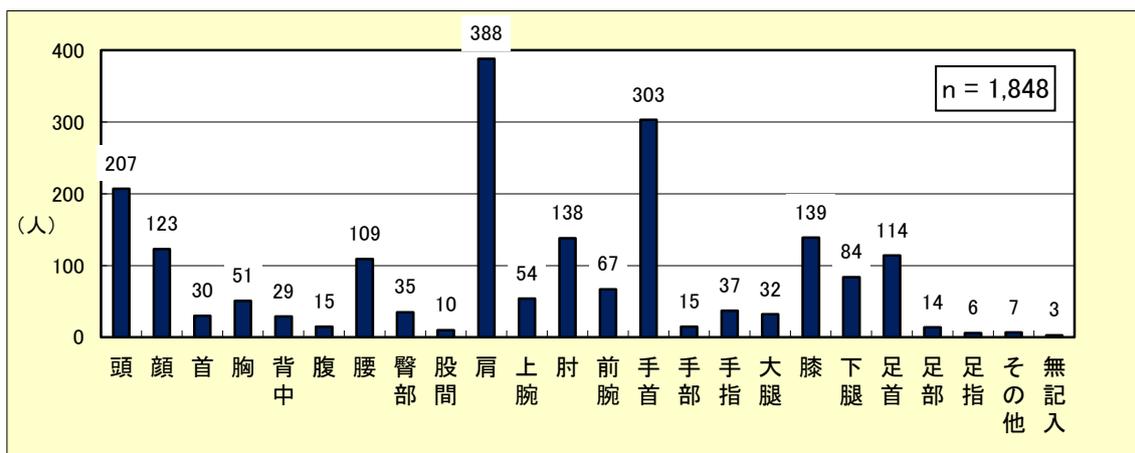
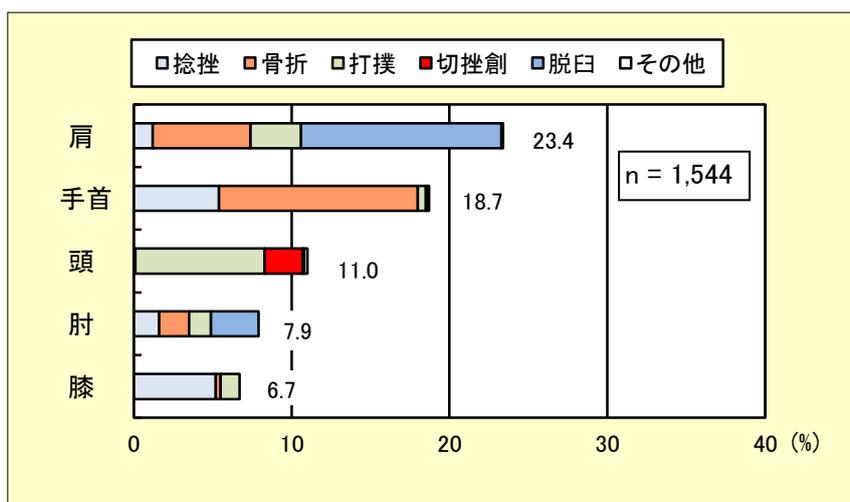


図 15 はスノーボードにおける「自分で転倒」の場合の傷害の部位と種類について、多く見られた部位を5つ示しています。肩と手首の割合が多くなっています。肩のケガの 54%が脱臼, 手首のケガの 67%が骨折でした。

図 15. スノーボードにおける「自己転倒」の傷害の部位と種類

(複数回答)



### 3) ソリの傷害

ソリの受傷は9件(人)でした。表8にその受傷概況を示しました。重傷の1件(事例8)は、38歳男性が立ち乗りソリで急斜面を滑走中転倒し、頭部を強打した事故でした。いわゆるスノースケートは、「立ち乗りソリ」に分類しています。

表8. ソリの傷害の概況

事例	ソリの種類	性別	年齢(歳)	傷害		程度	受傷原因	受傷場所
				部位	種類			
1	子ども用	男	31	顔	切挫創	中等傷	ネットに衝突	緩斜面
2	子ども用	男	4	膝	捻挫	軽傷	スキーと衝突	緩斜面
3	子ども用	—	8	頭	打撲	軽傷	人と衝突	ソリ乗り場
4	子ども用	男	5	顔	切挫創	軽傷	立木に衝突	緩斜面
5	子ども用	女	13	手首	捻挫	中等傷	転倒	ソリ乗り場
6	腰掛け	女	6	肩	打撲	中等傷	転倒	緩斜面
7	腰掛け	男	4	大腿	打撲	中等傷	マットに衝突	キッズパーク
8	立ち乗り	男	38	頭	打撲・切挫創	重傷	転倒	急斜面
9	立ち乗り	男	40	手部	痺れ	中等傷	転倒	急斜面

## 15. 受傷原因

図 16 は受傷原因を示したものです。スキー、スノーボードともに「自分で転倒」の割合が最も高くなっています。「他人と衝突」の割合は、スキーがスノーボードより高率でした。

図 16. 受傷原因

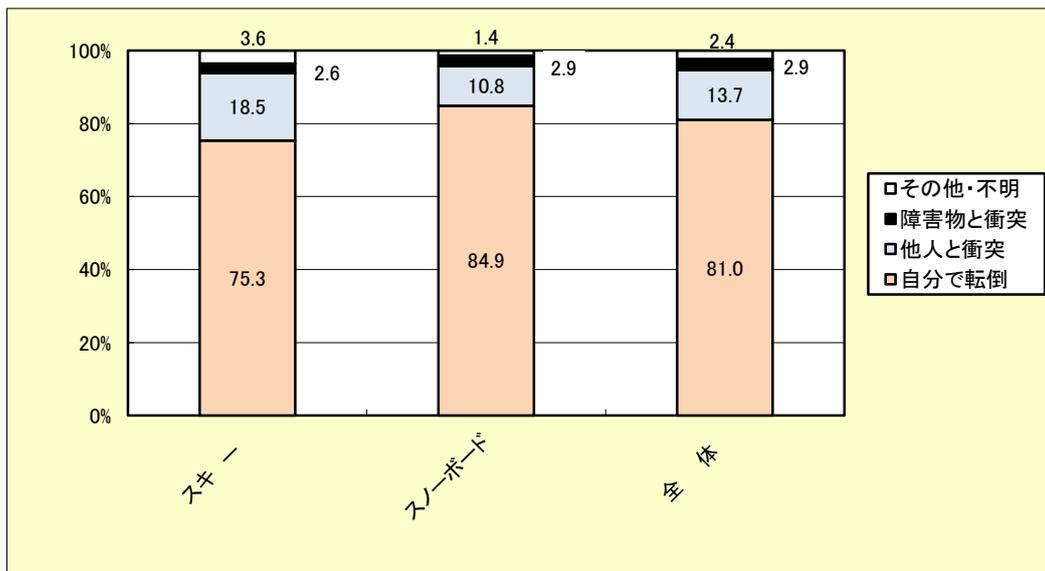


図 17 は受傷原因のうち「自分で転倒」についての内訳です。スキー、スノーボードとも「バランスを崩して」の割合が最も高くなっています。スノーボードの「ジャンプ・トリック失敗」の割合は 22.0% でした。

図 17. 受傷原因「自分で転倒」の内訳

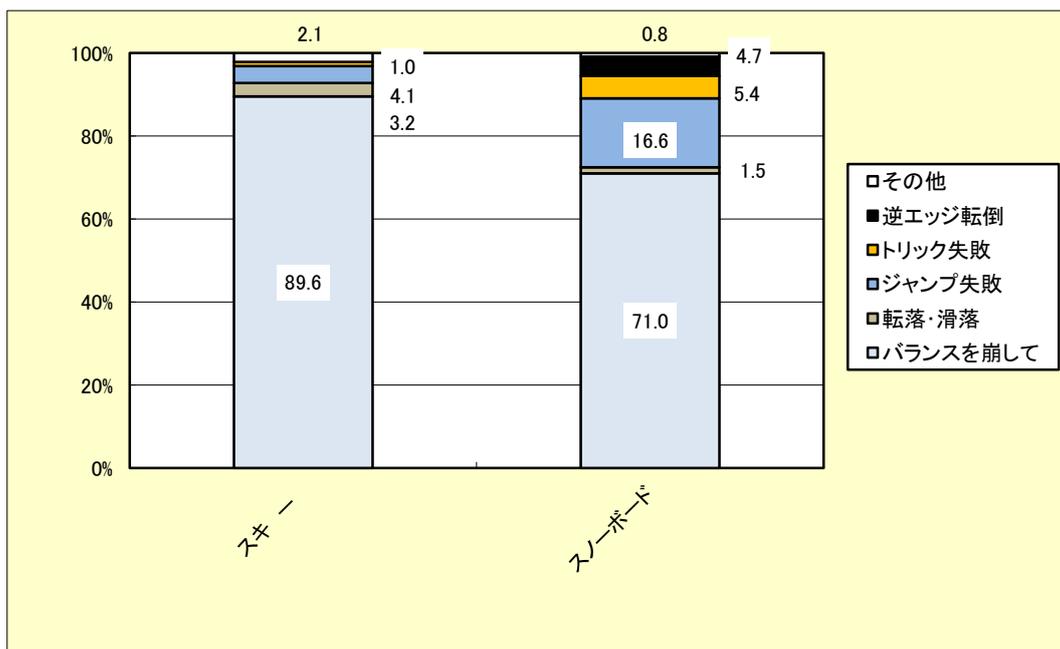
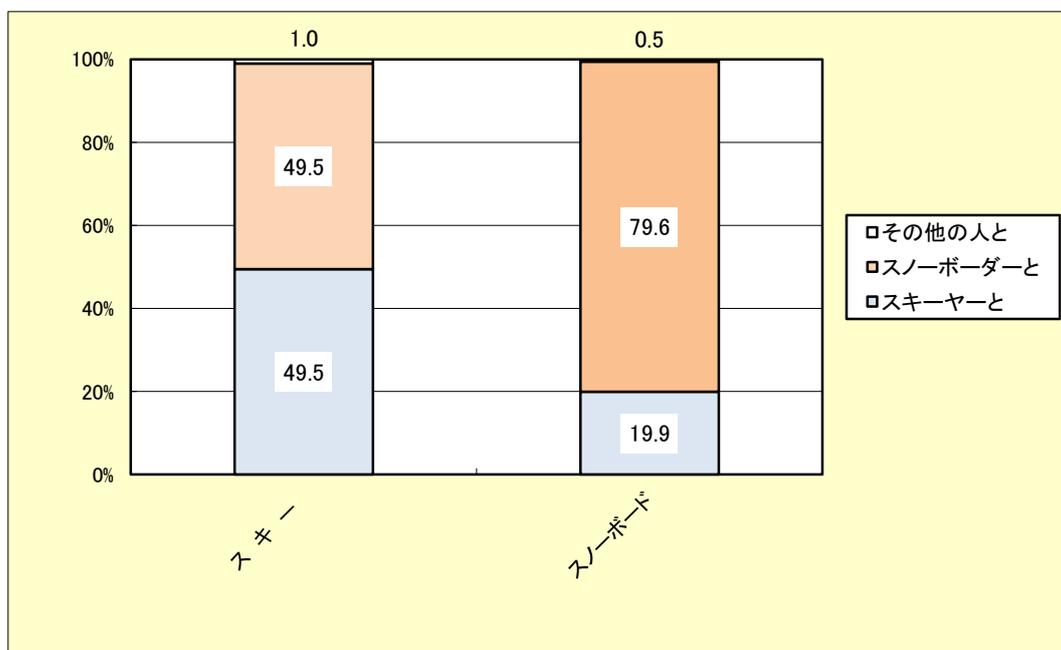


図 18 は受傷原因のうち「他人と衝突」についての内訳です。スノーボードでは、スノーボーダー同士の衝突が約 80%と高率でした。

図 18. 受傷原因「他人と衝突」の内訳



受傷原因のうち「人以外との衝突」で最も多かったのは「立ち木」で、スキー15件、スノーボードで35件でした。

※ 衝突相手の確認について

他人と衝突したのは 401 件でした。このうち「相手の確認」の有無の欄に回答した 336 件中、117 件 (34.8%) が衝突の相手を「不明」と回答していました。「不明」の件数は昨シーズン (28.1%) より増加しています。

※ 飲酒について

スキー、スノーボードで飲酒の有無欄に記載があったのは 3,170 人で、このうち飲酒の疑いがあったのは 75 件 (3.9%) でした。

## 16. 受傷場所

図 19 は受傷の場所を示したものです。スノーボードでは、「ワンメイク・キッカー」での受傷の割合がスキーと比べて高くなっています。スノーボードの「その他の場所」では、ボックスが多く見られました。

図 19. 受傷場所

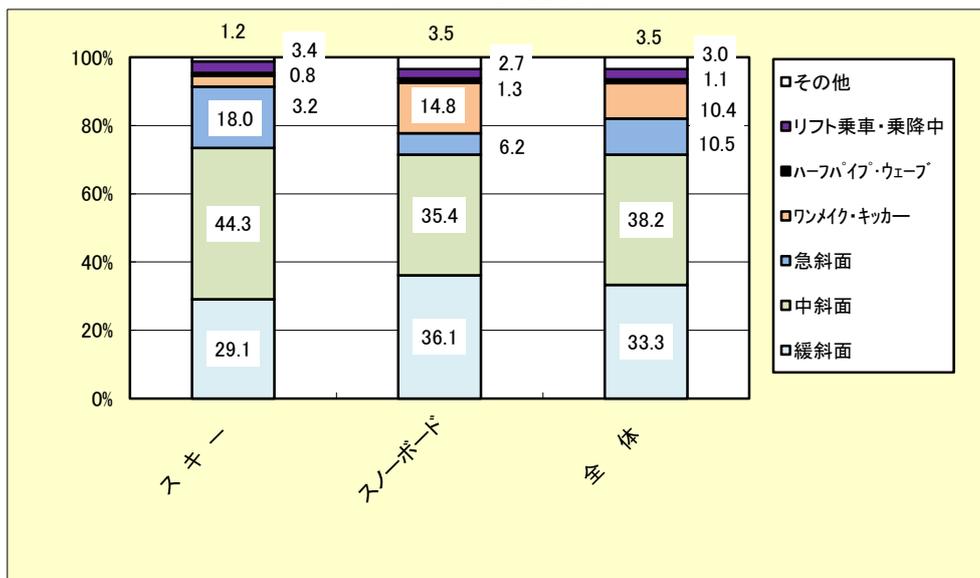
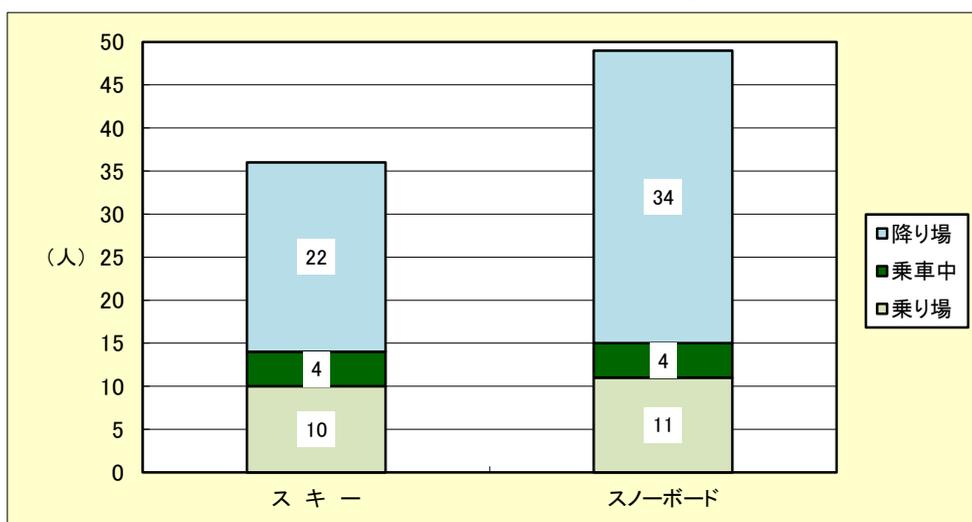


図 20 はリフト乗車・乗降中の内訳を示したものです。スキーでは 36 人が受傷しており、スノーボードでは 49 人が受傷していました。

図 20. 受傷場所「リフト乗車・乗降中」の内訳



## 17. 受傷時の行動

図 21 は受傷時の行動について示したものです。スキー、スノーボードとも「プライベート」での受傷が最も多くなっています。スキーにおいて「講習中」の受傷の割合が比較的高いのは、スノーボードより講習の機会が多いことと関連があると思われます。

図 21. 受傷時の行動

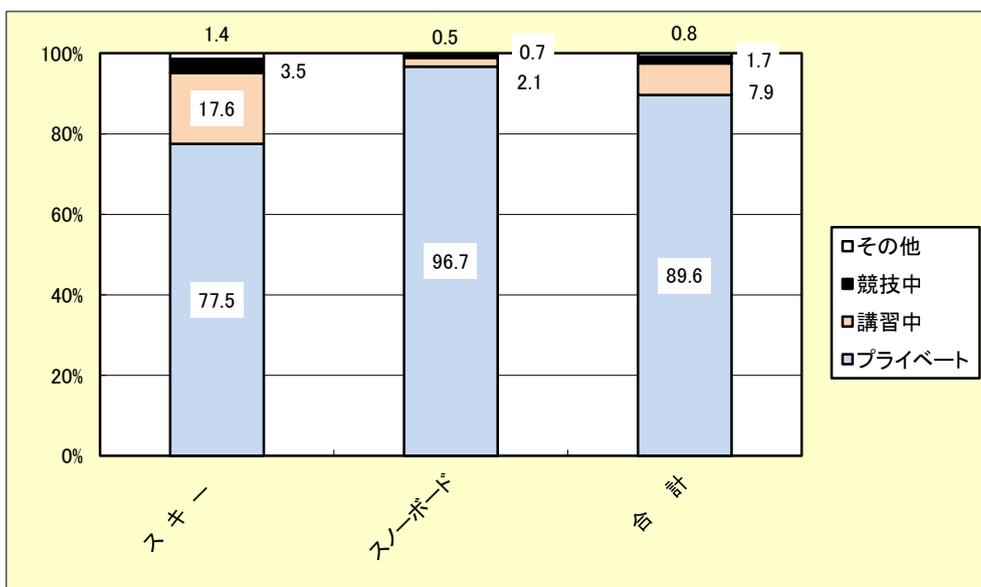
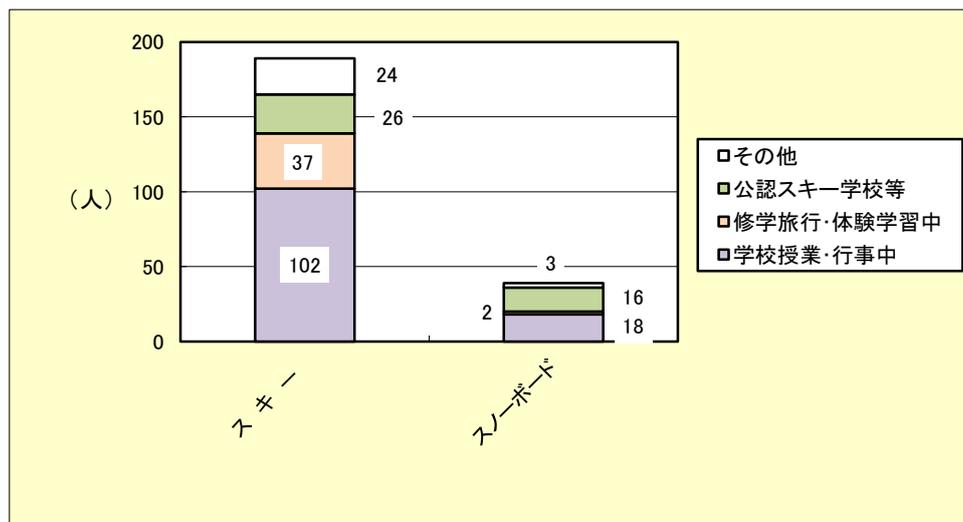


図 22 は受傷時の行動のうち「講習中」の内訳です。スキーでは 189 人が受傷していました。「授業・講習中」に「指導者」が受傷したと回答があったのは、アルペンスキー 6 人でした。

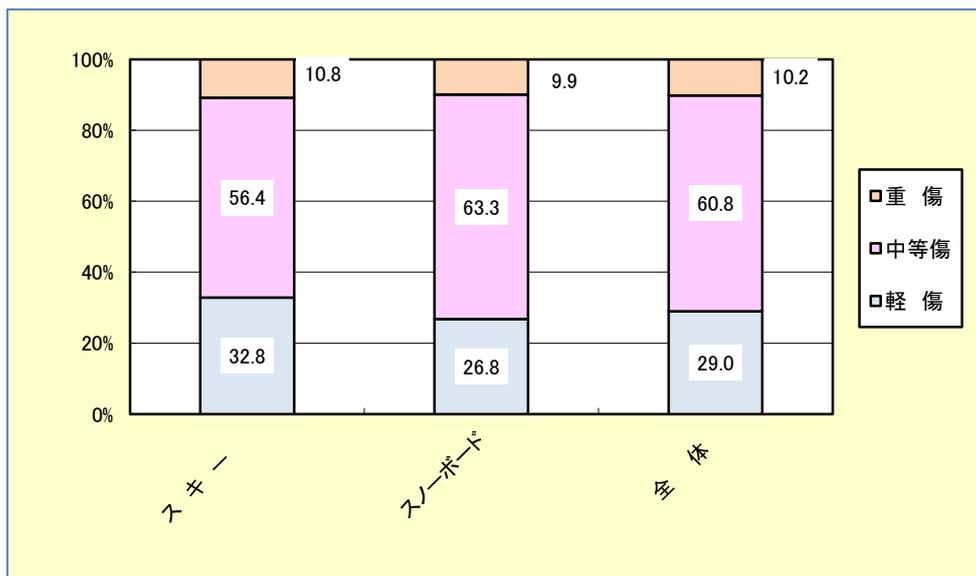
図 22. 受傷時の行動「講習中」の内訳



## 18. 傷害程度

図 23 は傷害の程度を示したものです。重傷の割合はスキー、スノーボードで大きな差は見られていません。なお調査期間中の死亡事故はありませんでした。シーズン中の死亡事故については、資料 1～3 をご覧ください。

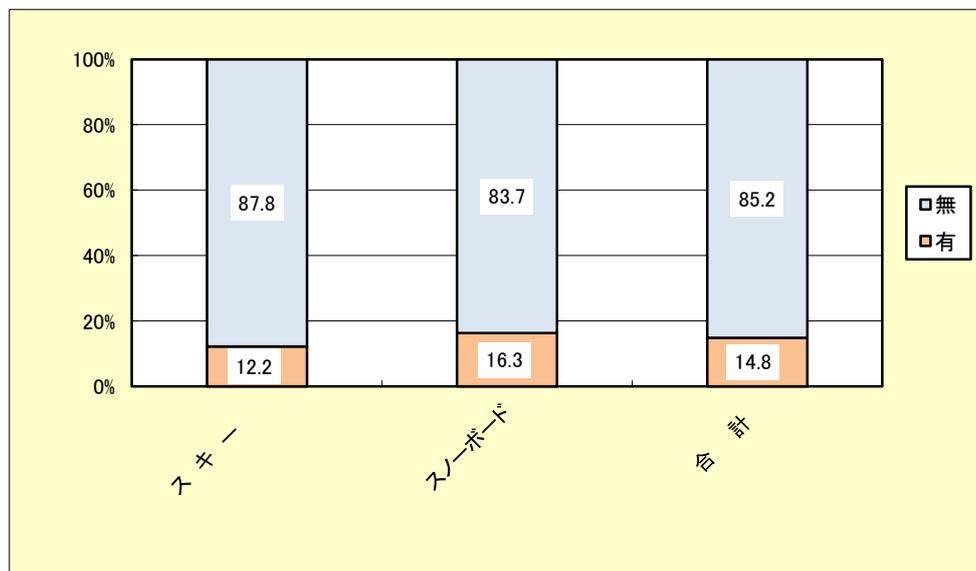
図 23. 傷害程度



## 19. 頭を強く打った疑い

図 24 は「頭を強く打った疑い」の割合です。スノーボードでの割合がスキーより若干多く見られています。

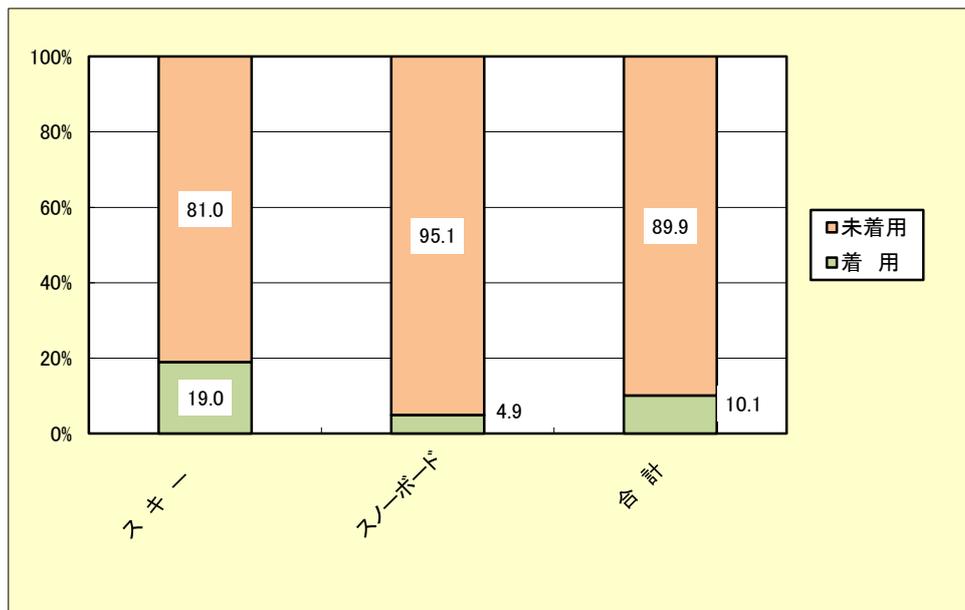
図 24. 頭を強く打った疑い



## 20. ヘルメットの着用状況

図 25 は受傷時にヘルメットを着用していたかどうかについてです。スキーでは、昨シーズンより増加していますが、スノーボードでは変化していません。(10/11 シーズン：スキー13.5%，スノーボード5.0%)

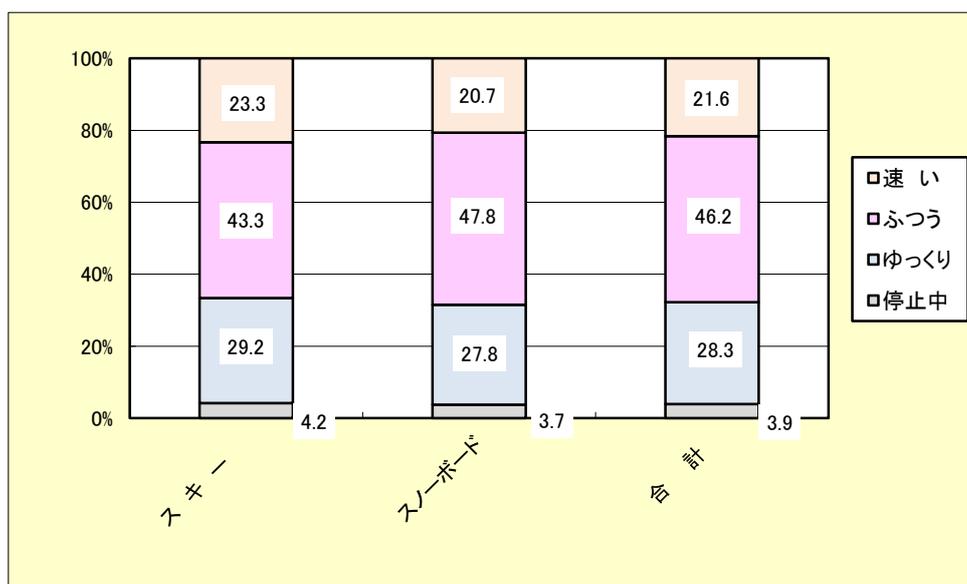
図 25. ヘルメット着用の有無



## 21. 受傷時のスピード

図 26 は受傷時の自覚的スピードを示したものです。スキー，スノーボードともに約 80% がふつう以下のスピードで受傷しています。

図 26. 受傷時のスピード

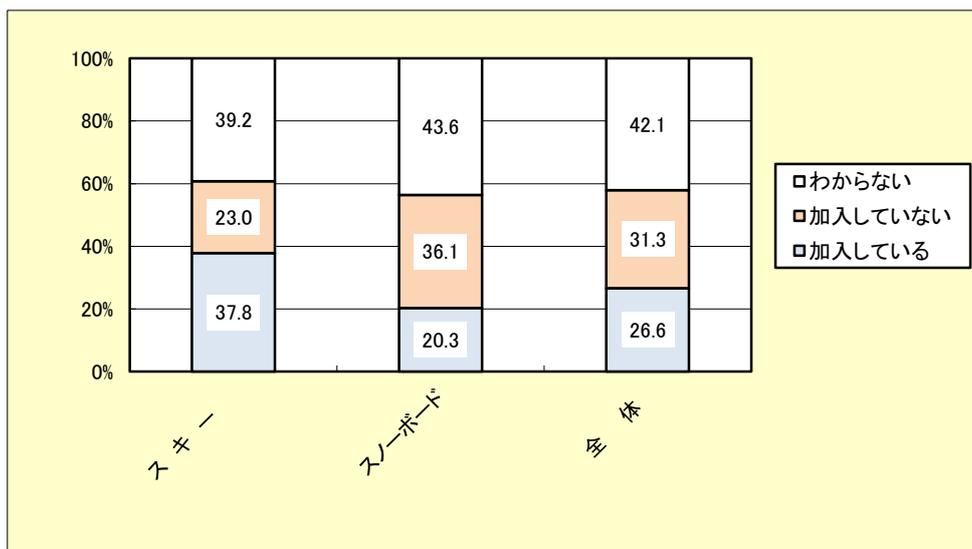


## 22. 保険の加入状況

### 1) 傷害保険の加入状況

図 27 は受傷者の傷害保険の加入状況です。スキーの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも加入率が高率でした。加入しているかどうか分からない受傷者が約 40% もいます。

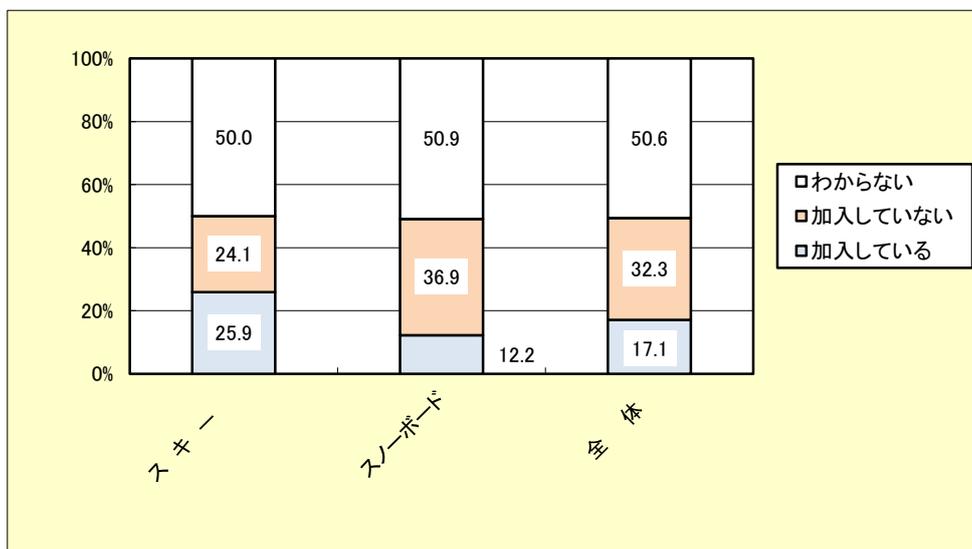
図 27. 傷害保険の加入状況



### 2) 賠償保険の加入状況

図 28 は受傷者の賠償保険の加入状況です。傷害保険と同様にスキーの受傷者の方がスノーボードの受傷者よりも加入率が高率でした。加入しているかどうか分からない受傷者が 50% もいます。

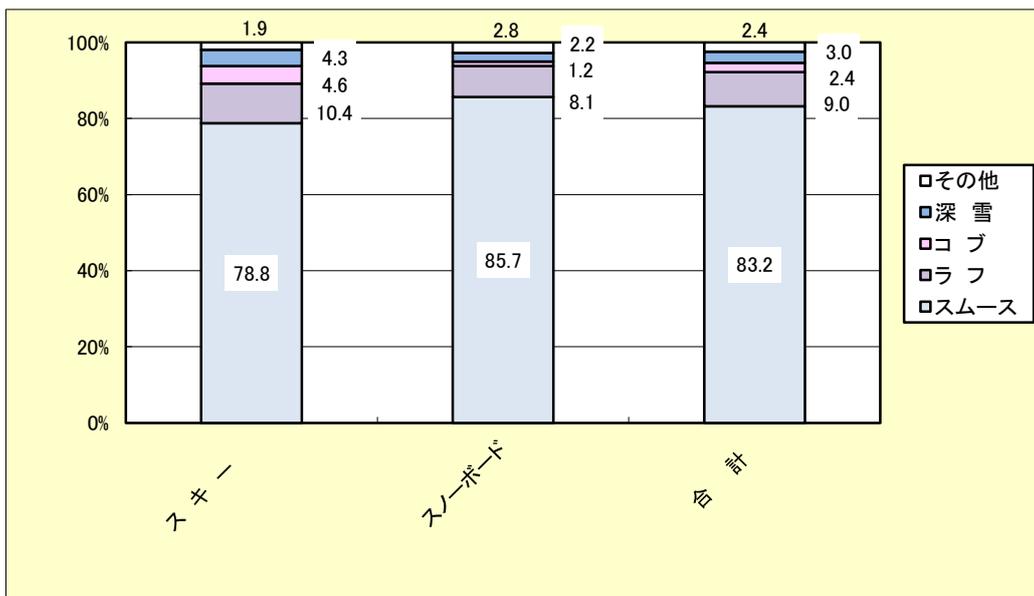
図 28. 賠償保険の加入状況



### 23. 雪面状況

図 31 は受傷時の雪面状況です。スキー、スノーボードともに受傷時の雪面は「スムーズ」の割合が最も高くなっています。

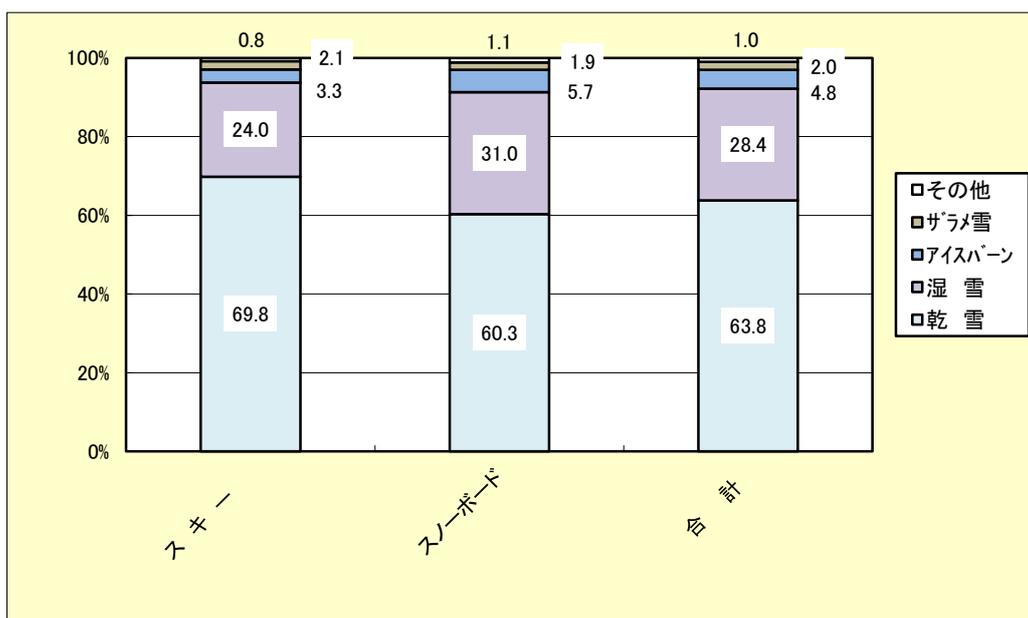
図 31. 雪面状況



### 24. 雪質

図 32 は受傷時の雪質です。スキー、スノーボード合計で約 60%が乾雪でした。

図 32. 雪質



道府県	北海道		青森県		秋田県		長野県		新潟県		群馬県		鳥取県		計	
	件数	人員	件数	人員												
スキーヤー	2	2	1	1	1	1	3	3	2	2					9	9
スノーボーダー	1	1					1	1	3	3			1	1	6	6
その他												1	1		1	1
計	3	3	1	1	1	1	4	4	5	5	1	1	1	1	16	16

## 《スキーヤー》

件数	性別年齢		事故状況	発生要因	備考
	男性	女性			
1	65		男子中学生スキーヤーとの衝突、胸を強打し多発性外傷ショック死	中学生のスピードの出し過ぎ	
2	38		コース外の林の中で倒れている状態で発見された	コース外の立木に衝突	
3	45		ビデオカメラを持って滑走中、コース脇の立木に衝突、2時間後出血性ショック死	コース脇の立木に衝突	
4	51		コース外を滑走中、雪崩に巻き込まれた	雪面から5mで窒息死	ビーコンを携帯していた
5	20		滑走中カーブを曲がりきれずにコースを逸脱、コース脇の立木に衝突、脳挫傷	コース脇の立木に衝突	3日後に死亡
6	39		レンタルスキーを借りた男性が返却時間を過ぎても戻ってこないと連絡があり、捜索したが発見できなかった	スキー場近くの川に転落	1か月後に発見
7	61		スキー場から知人と山へ入り、下山途中滑落して道に迷ったらしい、凍死	スキー場外で転落	翌日雪洞内で発見
8	59		スキー場の崖下5m下に上半身埋もれた状態で倒れているのを発見された	コース逸脱による転落	
9	74		コース外の立木に衝突し胸を強打	コース外の立木に衝突	視界30m

## 《スノーボーダー》

件数	性別年齢		事故状況	発生要因	備考
	男性	女性			
1	27		軟らかな雪に頭から突っ込み足が雪面に出ている状態で発見された	深雪での窒息死	
2	31		同行者によりゲレンデに倒れている状態で発見された	ジャンプ台からの着地失敗	
3	34		行方不明で捜索中全身が雪に埋まって心肺停止状態で発見された	深雪での窒息死	立入禁止区域
4	24		滑走中に転倒し頭部を強打	転倒	2日後に死亡
5	29		コース脇の木の近くで倒れているのを友人に発見された	コース脇の立木に衝突	
6	61		ゲレンデに倒れている状態で発見された	不詳	AED使用

## 《その他》

件数	性別年齢		事故状況	発生要因	備考
	男性	女性			
1		30	エアボード大会の練習中コースから外れ立木等に衝突	スピードコントロールミス	

**資料2**

2011/2012 スキーシーズン死亡者の内訳及び原因

2012年5月5日現在

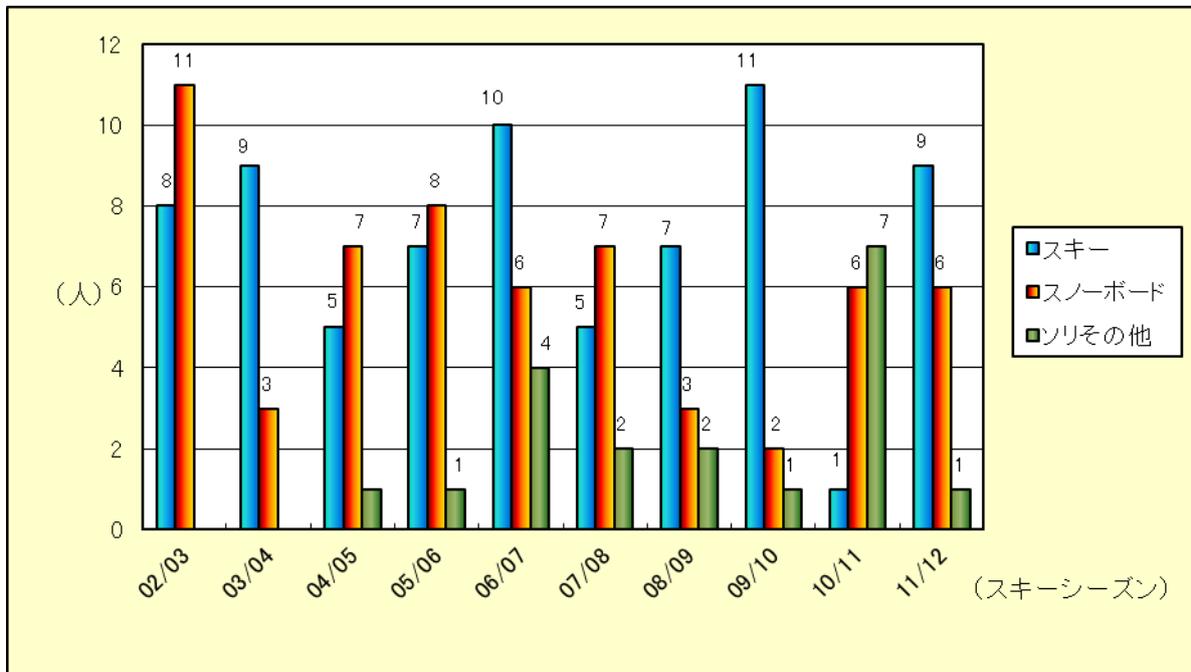
項目	性別			死亡までの日数			死亡原因									
	男	女	計	当日	翌日	3日以降	人と接触	コース外の立木に衝突	コース逸脱転落	雪崩	河川敷や水路で発見	ジャンプの着地失敗	コース内で転倒	深雪で窒息	その他原因不詳	計
スキーヤー	7	2	9	8		1	1	4	2	1	1					9
スノーボーダー	5	1	6	5	1			1	1			1	1	1	1	6
その他	0	1	1	1				1								1
計	12	4	16	14	1	1	1	6	3	1	1	1	1	1	1	16

※ 事務局で情報を収集できたものを掲載しました

※ 行方不明者で、その後死体で発見された人については死亡までの日数は発見状況から判断し当日としました。

**資料3**

スノースポーツ死亡者数の10年間の推移







2011／2012 シーズン スキー場傷害報告書  
平成 24 年 9 月発行

発行所 全国スキー安全対策協議会

(事務局)

〒111-0056 東京都台東区小島 2 丁目 18 番 15 号  
新御徒町妙見屋ビル 3 階

一般財団法人日本鋼索交通協会内

TEL 03-3866-3163

FAX 03-3866-3164

E-mail [jfta@nikokyo.or.jp](mailto:jfta@nikokyo.or.jp)

<http://www.safety-snow.com/>

(無断転載禁)